

A_あ N_な A_ん

発行人●阿南町公民館編集部 編集人●公民館報編集委員会 印刷所●飯田共同印刷株式会社
連絡●〒399-1511 東條58-1 TEL 22-2270 FAX 22-2287
E-mail:kyouiku@town.anan.nagano.jp

Contents

- P1 表紙 遊歩道
- P2 帯川の話 (西尾実 著)
- P3 あなん情報発信局
ANANフォトコン選考について!
- P4 うちのホープ
あの人この人
- P5・6
あなんトピック
お知らせ・編集後記

藁細エワークショップ! 参加者の皆さんと作品



遊歩道

最近の飲食店は「いらっしやいませ。ご注文はこちらのQRコードからお願いします」こんなお店が増えてきました。数年前はコロナ禍、非接触で対応できる利便性もあって、お店側からしても、注文ミスのトラブル減少、人件費削減、インバウンドの集客等、メリットも多いと思います。客側からしてみても自分のペースで注文でき、履歴から注文内容・金額などの確認もできます。こういったセルフオーダーが主流になるのでしょうか?

かつて、パソコンやスマートフォンが普及する以前は不安を感じる人もいる中で、気づいたらこんなにも世の中に浸透しています。どんなものでも受け入れるまでは時間がかかりますが、いずれ自然に普及していくのでしょうか。さらに支払方法も多様化しています。便利なキャッシュレス決済を利用する人は年々増加の傾向にあるようです。が、このキャッシュレス決済は侮れない。QRコード決済の盗撮、クレジットカード番号の盗用、最近ではQRコード張替えの詐欺なども横行しています。世界に目を向ければキャッシュレスは当たり前かもしれません。が、しっかりとしたセキュリティ対策を講じて、使い方もよく考えなければいけません。私のような古い人間には、セルフオーダーより店員さんに言葉で伝え、キャッシュレス決済より現金払い。この方が人情味があり安全なのかもしれませんね。

著作 西尾 実

おびかわ

帯川の話
「子馬」

帯川では、どの家でも必ず入口の大戸を開けると、長い土間があって、その左側には黒光りする板の戸襖^{かまど}を隔てて下座敷・上座敷が並び、その土間の右側に厩^{うまや}があった。そこでかわれていた馬は、主に農耕の労働に使われた。厩の床にはわらや青草を入れて堆肥^{たいひ}を作ることになっていた。

わたしの家でいうと、厩のあった入口のそばの土間の天井には、毎年つばめがきて巣を作り、子を育てた。そのつばめの巣を作るために、ちょっとした板を天井の下に打ちつけ、親つばめや子つばめの糞をそれで受け止める仕掛けであった。あの子つばめが頭をあげて、親つばめの運んできてくれる餌を争うように小さな嘴^{くちばし}を開いて、鳴き立てるのはまことに愛らしい図であった。そのつばめは、毎年春になるとその古巣にきて巣をつくりはじめ、秋になると、その子つばめたちを連れて飛び去って行く。

こどもが母につばめは何処へ行ってしまったのかと尋ねると、遠い南の常世^{とこよ}の国からきて、また寒くなりかかると、その常世の国へ帰って行くのだと教えてくれる。あの黒っぽい頭と背中に、黒っぽい羽をつけ、くちばしに紅をさしたような赤味を残して白い下腹を地上の人間に見せながら、人間を信頼し切ってそれぞれの家に飛びこんだり飛び去ったりするのは、いかにも常世の国の楽しさを告げるかのようであつた。

またこの厩のすぐ奥には、大きなかまどが築かれており、そこに掛けた大釜で湯をわかして、厩の前に下げてある馬桶または馬舟に入れ、雑穀やかいばという糞^{ふん}をごく短く押切りで切ったものを交互に与える。がこの厩の馬にも、毎年一定の時期に種付けをし、その厩の奥に厚く糞を敷いて、お産をさせる。可愛い子馬が親の乳を吸い、少し大きくなると、親の馬桶や馬舟に親といっしょに口を入れて食べる。そのうちに子馬は背が低いから、入口のませをくぐって、土間にでて来る。可愛い足どりで、そのころは、毎年五月になると、新野の町裏にある村の芝居小屋の舞台と見物席を利用して、当歳馬^{とうさいま}

の市が立った。

近村の農家で育てている子馬が集められ、各地から集まった馬喰^{ばくろ}衆^{しゅう}によって、その子馬が一頭一頭競り売りされる。その市までついて来た飼主と親馬は、そこに子馬を残してめいめいの村へ家へと帰って行く。わたしの家でも、そのころは、年々子馬を育てていたもので、父が親馬と共に家を連れ出す時から、可愛い子馬との別れを惜んで、母などは涙とともに見送っていた。市から帰ってきた父が、市に集った子馬の中で、何処の何という家の子馬が優秀だったというはなしとともに、家の子馬は何処の何という馬喰に買い取られたというはなしを炉端でしている時も、親馬はしきりに、同じ厩にいたなくなつた子馬を呼び求めるように啼^ないている。

その翌日は、わたしたちは、多勢の馬喰たちに連れられて、新野から帯川を通して早稲田の方に下っていく子馬の群を見るために、学校の庭先集^{なみ}って、お関所^{かんじょ}の前の下りて来る、幾十頭も数珠^{じゆず}繋^{つな}ぎに手綱で繋ぎ合されている子馬の群を迎えた。中には自分の家で育てた子馬と、最後の別れをしようと思つて、その一頭一頭に目を注

いでいる者もいる。

わたしの家は、そのころの分教場のすぐ近くであつたから、いろいろな子馬たちの啼き声を聞いている親馬は、その群の中にわが子の声を聞きつけたかどうか、大戸を閉め、ませを嚴重にした厩の中で、狂わんばかりに啼き続けている。子馬の列の所々には馬喰が立って、絶えず共同の行進を続けさせようとしているので、わたしなどもこれが家の子馬だと思つても、近づいて顔を撫でても道^{みち}を軽くたいてやることもできない。それも忽ち^{たちまち}目の前を通り過ぎて、そのころかかっていた井戸入沢の橋を渡って山かげに入つてしまふ。

この子馬たちは、大下条村・富草村・下条村などの農家にだんだん別れなくてはならない淋しさを、わたしたちの心に残して、途中も一度だけ学校の庭から眺められる「根土地^{ねどち}ぼつき」の道を曲って、落合橋の方へ消えてしまふまで見送らないではいられなかった。先生の注意を受けて教室へ入っても、何となくその日の勉強は落ち着いてはできなかったように思い浮べられる。

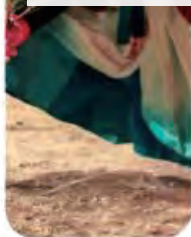
あなん情報発信局

ANANフォトコン選考開始!

令和6年5月15日(水)〜令和7年1月31日(金)まで「ANANフォトコン」と題して、現像写真で選考する「写真部門」・SNSを利用した「インスタグラム部門」の2部門にて募集を行いました。

昨年の35作品(写真部門13作品・インスタグラム部門22作品)を大きく上回る、67作品(写真部門22作品・インスタグラム部門45作品)もの作品が応募されました。ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました!

ご応募いただきました写真は、町PR等の事業に活用させていただきます。



ANANフォトコン選考
Googleフォーム

会場 かじかの湯@阿南町化石展示館
(フリースペース)
時間 午前10時〜午後4時
「ANANフォトコン」で募集した写真を、選考展示いたします。多くの方のご来場をお待ちしております。また、左記QRコードより選考投票が行えます。阿南町の良さが伝わり足を運んでみたいと思う写真を選考して投票をお願いします。

3月1日(土)〜

3月30日(日)

フォトコン
写真選考展示会

あの人この人

和合 寺村

まつした
松下 綾一さん
りょういち

名前の「綾」の字は「りょう」と読むそうです。

和合森林組合にお勤めです。「以前やっていた仕事とはまったく違う面白さがあります。今年の冬は連日の除雪作業で大変でした。普段は、作業計画や現場の管理、県への報告作成などが中心です。天気は左右されるので、どうしても無理をしがちなのですが、安全で労災のないことが一番。しっかり休んで給料ももらえる働き方を考えていくことが大事になります」と話されました。休みの日は、「父親が趣味でや

っている」サボテンやランの栽培を手伝ったり、家周辺の山や竹林の整備をしたり、釣りにも出かけます。

「天竜川ではブラックバス、和合川ではアマゴやイワナ。今は放流したものを釣るやり方ですが、将来的には、天然のものが増える環境作りをしていきたいと思っています」

しいたけ、なめこ、ひらたけの駒打ち用の原木を用意したそう、で、「キノコの栽培を考えています。松茸も採れるといいですね。タラの芽やコシアブラも楽しみです」とのこと。

念仏踊りや運動会、どんど焼きなど、地域の行事にも積極的に参加している松下さん。仕事だけにとどまらない、自然環境への関心や前向きな考えをお聞きして、心強く思いました。



うちのホープ

らくと
楽人さん（4歳）※

名前は「らくと」。

沖縄で生まれ2歳過ぎまで海のそばで育ちました。それから縁があり、今では山暮らし。すっかり山の子です。自然や生き物が大好きで、お散歩に行ったらいつも「母ちゃん、お土産！」と言ってその季節に出会えるもの、胡桃や栗、どんぐりやタンポポ、花桃の種や綺麗な落ち葉、名前も知らないたくさんの小さな実をくれます。食べることも大好きな

楽。長野は大好きな果物がどの季節もたくさん食べられて幸せです。子供があまり好まなそうなの、粕漬けやしよっぱい昔ながらの梅干しも大好き！柿の時期になると、楽の大好きな熟柿の季節。今年はたくさんさんの熟柿を段ボール箱に入れて、縁側に置いておいたのですが、たぬきに綺麗さっぱり食べられていました！それでも、たぬきが美味しく食べてくれたなら良いね〜と。今の季節はお家で作った干し柿を毎日食べてうれしそうです。このまま自分の感覚を大切に、伸び伸びと大きくなって欲しいです。

※ご家族の意向により、お名前のみ掲載いたします。



あな ン トピッ

1月1日(水)

第47回 阿南町富草門原

新春走ろう会

令和7年1月元旦に富草公民館 門原分館主催の第47回阿南町富草門原新春走ろう会が盛大に開催されました。昭和54年に第一回大会開催以来、毎年開催されています。今年も参加者全員寒さに負けず快走をしました。



令和7年1月1日(水) 元旦
第47回阿南町富草門原新春走ろう会

新春走ろう会 結果

1.3 kmの部	1位 伊藤 駿 (飯田OIDE長姫高校)
2位 熊谷 花奏 (富草小学校)	3位 松下 律 (富草保育園)
2.0 kmの部	1位 熊谷 和馬 (富草小学校)
2位 熊谷 完太 (富草小学校)	3位 鈴木 光佳 (鈴木左官)
3.6 kmの部	1位 松下 幸太 (阿南第一中学校)
2位 松下 昂史郎 (高森中学校)	3位 熊谷 創太 (阿南第一中学校)

令和6年度
藤本四八記念

小中高生写真賞

阿南町小中学生が入賞!

飯田下伊那地域の小中高生を対象にした写真の公募展「藤本四八記念小中高生写真賞」の表彰式が1月18日、飯田市のムトスぶらざで開催されました。結果は下記のとおりです。

水谷章人特別賞

作品名

「サンタさんからもらった

望遠鏡で初めてのお月見」

大下条小学校 1年生

関 朔生さん

美術博物館館長賞

作品名

「桜花爛漫」

阿南第一中学校 2年生

勝又 大耀さん

公民館
なんでも
掲示板開設!

住民の方々の声を聴き、公民館事業に活かすために公民館なんでも掲示板を開設しました。

Googleフォームを通じて、公民館事業でやってもらいたいこと・公民館報にのせてもらいたいことなど発信できる場として活用してみてください。多くの住民の方々の声をお待ちしております!

公民館報なんでも掲示板



2月8日(土)
藁細エワークショップ

主催 阿南町公民館
会場 阿南化石展示館
時間 午前10時～正午

今年度、最後(4回目)となる藁細エワークショップを開催しました。且開の里のご協力のもと今回は、「みごぼうき」を作成しました。参加者の方々は真剣に作製をしました。



ワークショップの様子



みごぼうき

2月8日(土)
和合演芸大会

主催 和合演芸大会実行委員会
会場 和合小学校体育館
時間 午前11時～午後3時半

和合太鼓 太和楽・ピアノ演奏・ギター弾き語り・カラオケなど。蔵の御幣餅・つるや・バルバパパ・クマポンズなどの出店もあり、もち投げで締めくくり。盛り上がりしました。



もち投げの様子

2月11日(水)・12日(木)
二水会 展示会 開催!

会場 東條会館

大下条 深見地区の方々が活動をしている「二水会」の方々が、クラフト作品や趣味で作成した絵はがきなどの展示会を開催しました。手の込んだ作品が展示されました。

おしらせ

3月1日(土)～3月30日(日)

あなん趣味展 開催

主催 阿南町公民館
会場 阿南化石展示館

午前10時～午後4時

阿南町 在住者の方や勤務者の方々の趣味の作品を集め展示会を開催します。3月1日(土)以降も作品を出展していただける方を募集しています。多くの方のご参加をお待ちしております。参加ご希望の方は左記問合せ先までご連絡をお願いいたします。

問合せ先 阿南町公民館事務局

☎(22)22270



二水会 展示会の様子

編集後記

神送りからどんど焼き

1月12日 早稲田区の「厄払い」「神送り」「どんど焼き」が行われました。

午前9時から早稲田神社にて宮司が今年1年の五穀豊穡や無病息災の祈禱の後、各種団体長の玉串法典があり、続いて本年厄年の方の厄払い神事があり皆にお神酒が振舞われました。

その後、境内にて宮司・総代長・区長を先頭に本厄の皆により人形と社等を担ぎ境内を3周したのち神送りが始まります。三垂列者もそれに続き早稲田町を「ハリセーヨイヤナ」と掛け声をかけながら歩き、途中で地元の人たちのお参りを受けながら集落の外れまで行きそこで、厄神様を送る神事が行われます。そして最後に花火の合図にてみんな後ろを振り向かないようにどんど焼き会場へ移動します。会場では区長の新年のあいさつの後、宮司のお祓いがあり正月飾りに点火し「どんど焼き」が始まります。そしてみなでお神酒等を飲み歓談をします。最初は大きな炎でモクモクと煙を立ち上げていましたがひとしきり過ぎると火も落ち着きそれぞれ皆持ってきた餅などを焼き楽しめます。地域の人たちが一同に会する事が少なくなった昨今、新年の始まりを楽しく過ごすことができました。

阿南町公民館館長 伊藤 幸一